



## 連帯のはじめの一步

コスモスハーモニーに嬉しいお便りが届き始めています。  
2通ほど紹介させていただきます。

①すごくチャレンジな入学式でわくわくしました。

ありがとうございました。

私はゲームが好きなので入場の曲を単純に喜んでいましたが、あれは冒険に出るみんなのための序曲だったわけですね。

我が家の娘はパフォーマンスタイムに向けて数日前から緊張し、当日の朝は泣きながら起きてきました。そんな中で臨んだので親としてもとても不安でしたが、渡辺先生がこれから何度でも挑戦する機会があります！とおっしゃっていたので救われましたし、すごくいい環境だなと感じました。

親としても色々学びながら SOLAN の子どもたちの挑戦をサポートしていきたいです。

クローリングムービーも素敵でした。

ICT を使うって、このスピード感だよ、と思いました。

楽しい入学式をありがとうございました。

他のどこにもない入学式で、きっと準備は本当に大変だったのだろうと思います。

スタッフの皆様、本当にどうもありがとうございました。

準備も当日の運営も、我々自身も大きな挑戦を行いました、そうした部分にも目を向けていただき本当に励まされる思いがしました。

素敵なメッセージを誠にありがとうございます。

また、「共に子どもたちの挑戦をサポートしていきたい」の部分も大変胸に響きました。

家庭と学校が真に連帯した時、教育の可能性は大きく大きく広がります。  
我々担任団も歩みを始めたばかりですが、保護者の皆様と共に一歩ずつ進む中で、子どもたちにとってのよりよい教育環境の実現を図っていきたいと思います。

入場の際の序曲も、まさにその通りです。

私たちはお子さんたちと、そして保護者の方々とも、共に挑戦を続けていきたいと思っています。



②素敵な学年通信を読ませていただき、この学校に通わせることができて本当によかったと改めて思いました。

学校での様子が気になっておりましたが、こどもに聞いても一部分しか伝えてくれないこともあり、たくさんの写真と説明ありがとうございました。

また、しつけについてもきちんとご指導いただけるようで自宅でもさらに声をかけていきます。

今後ともよろしく願いいたします。

No.3 と No.4 の内容に寄せてのご感想、誠にありがとうございます。

文章を書いている者として、こうしてご感想を寄せていただけることがどれほどありがたく、また力になることか。

私は、保護者の方から寄せられる言葉のことを「力水」と表現して発信することが多いです。

例えば手前味噌で恐縮ですが、この3月に発刊した拙著の「はじめに」には次のように書きました。少し長くなりますが大切な部分なので引用します。

(前略) お家の方から寄せられる温かい一言は、我々の日々の仕事の疲れを吹き飛ばし、仕事への活力をみなぎらせる、いわば「力水」のような存在で

す。

一方、こうした言葉の多くを教師が受け取ることのできるタイミングは、ほぼ決まっています。

それは、一年間の「終わり」の時です。

クラスが解散する時。子どもたちが卒業する時。

一年というロングコースを懸命に走り抜き、ゴールテープを切る頃に寄せられることが多いのが先述のお便りです。

フルマラソンにたとえるならば、40km以上もの道のりを走り、ゴール間近になってようやく給水ポイントがあるようなものです。

無論、そのことにも意味が無いわけではありません。走り切った後の給水にのどを潤し、次年度への決意を新たにしている人もいます。

しかし、「超多忙」「業務過多」が叫ばれるこの過酷な環境の中で、沢山の荷物を背負い、最後まで走り切ることができずに倒れる仲間が多数いることもまた事実なのです。

私は、この状況は学校教育に携わるすべての人たちを不幸にするシステムエラーだと考えています。

給水ポイントは、途中にいくつかあった方がよいです。

コーチからの檄や仲間からの声援も、頻りに届いた方がよいに決まっています。荷物が多いなら、一人で全てを持たないでシンプルに分担すればよいはず。こんな当たり前のことが、今の学校現場では中々実現できず、そこに携わる人たちが疲労困憊している状況が存在するのです。

私は、教師とは「伴走者」のような存在だと思っています。

子どもたちが走る人生の隣を、一定期間共に走る伴走者。

そして、そのまた隣には、より長い期間を伴走している保護者の姿があります。他にも、多くの方が子どもたちの成長を様々な形で応援してくれていることでしょう。

本来ならば、周りの大人たちは主役である子どものために互いに手を取り合うことが望ましいはず。

しかし、現実にはそうしたかわりは中々実現されていません。

私が教師として勤め出した頃に比べて、状況はより難しくなっているとすらいえます。

それどころか、不必要なまでに相手の存在を恐れ、反目し合うかのような関係すら見られる状況も存在しています。

変化の激しい時代です。

制限の多い時代でもあります。

先が見えない不安から、その恐れを相手にぶつけたくなる気持ちも分からなくはありません。

でもやはりこんな時代だからこそ、我々は手を取り合うことが大切なのだと思います。

相手の弱みをあげつらい攻撃し合うのではなく、足りない部分は補い合い、強みを生かし合って走っていこうとする決断を、今こそはっきりと下す必要があるのだと思います。(中略)

教師が一人で全ての役割をこなし、万能者を目指す時代は終わりを迎えています。

そのやり方自体が、社会の変化スピードにマッチしていないといった方が近いでしょう。

人々のニーズが加速度的に変化し、多様化していく現代において、教育における諸々の課題を教師が一手に引き受けることはとうに限界ラインを超えています。

それでも尚、全ての荷物を抱えながら孤軍奮闘のレースを必死に走り切ろうしている方々は少なくありません。

その懸命に力を振り絞る姿が、仮に学校現場のシステムエラーを助長している側面があるとするならば、それは一つの悲劇です。

教師は完全無欠でなければいけないという幻想や縛りを卒業し、伴走者同士がお互いの強みを豊かに引き出し合う在り方が実現することが、本書のメインテーマです。

教師・保護者双方が喜びや幸福を感じながら伴走できる在り方を実現し、子どもたちの健やかな成長を支える一助になることを目指して筆を進めています。



私たちは子どもたちのより良い成長を支える為に、できることを精いっぱいやりたいと思っています。

とは言っても、教師も人間なので苦手なことや不得意なことがたくさんあります。

つまり、教師だけの力では78人ものお子さんの豊かな成長を支える上では力が足りないのが実情だということです。

そうした意味でも、よりよいクラスを作り、充実した学びを実現していく上では保護者の皆様のご協力が欠かせません。

この学年通信コスモスハーモニーも、学校のみが発信を続ける一方向（ワンウェイ）型ではなく、家庭からのお声を紹介したり、相互に交流できるような双方向（ツーウェイ）型の通信となることを目指しています。

ですから、すでにこうして届き始めたお家の方からのお便りが本当に嬉しかったのです。

連帯のはじめの一步を踏み出せたことの喜びを感じながら、今日も子どもたちとの大切な時間を大切に過ごしたいと思います。

また、お家の方からアイデアをいただきまして、コスモスハーモニーの読者ページを作ってみました。

<https://docs.google.com/forms/d/1DoRWC86GgFFKayOoi7CTk6XcbykJgZ7y9xbvViZBZ-k/edit>

ペンネームなども活用しながら、どうぞ楽しくご参加いただければ幸いです。

お家の方からの豊かな声が届くことは、間違いなく学校・学年を元気に、そして笑顔にします。（文責：渡辺）